



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2018.11

No. 416

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



落としたのは誰だ！

井上 幹男(長瀬町)

● 羽拾いの楽しみ

バードウォッチングをしている方なら、誰でも1度や2度、羽を拾ったことがあることでしょう。そして、その羽の大きさ、模様の特徴、鮮やかな色から、その羽の落とし主を知りたくなるのも当然です。

私の場合、趣味の山歩きをしながらバードウォッチング楽しむ欲張り派です。山歩きは足元に注意しながら1歩1歩登るので、どうしても足元を見ている時間が長くなり鳥の羽も目に入ります。拾った羽を持ち帰り調べることがなよりの楽しみになりました。

未だに多くの羽が落とし主不詳のままですが、羽拾いの楽しみをお話したいと思います。

● なぜ羽は落ちてくるのか？

まず換羽によるものです。小鳥の多くは、繁殖後から秋口にかけて羽が抜け替わります(例外も多いです)。ヒヨドリの幼鳥はその年の冬までに羽のすべてを新しくさせます。そのため羽を拾う確率が高くなります。

また猛禽類やキツネなどの外敵に襲われて落とされたものなども考えられます。

● どこに落ちているのか？

換羽の場合は、8～10月にその鳥の生活圏で羽を拾うことができます。例えば、水場やねぐらなどのある公園緑地、社寺林などです。

外敵による場合には、特定が難しく猛禽類の生活圏であれば多量に拾う事の出来る場合があります。

● 落とし主の調べ方

① 拾った場所・季節からの推理・・・その鳥の生活圏で拾う事が多いのでそこから当たりをつけます。

冬であれば夏鳥の可能性、夏であれば冬鳥の可能性はほぼないと思います。

② 拾った羽の長さ(大きさ)からの推理・・・物差し鳥ならぬ、物差し羽です。カラス、ハト、ヒヨドリ、スズメの羽です。これらの羽は比較的拾う事の多い鳥です。

③ 羽の色や模様からの推理・・・羽の色・模

様は重要な手がかりになります、例えばアオバトは黄緑や黄色の羽が大半です、また、コゲラやアカゲラの羽には白黒の縞模様が特徴的です。

さらに、羽図鑑、『BIRDER』などの書籍、ネットを参考にします。

保管方法は、私はファイル、ジップロックやお菓子の空き缶などに入れていますが、必ず拾った年月日、場所(詳細)が分かるようにしています。

● 羽拾いでの持ち物(自分流)

① ペットボトルホ

ルダーを用意し、その中にポリ容器を入れて二重にします(写真右)。



② パルメザンチーズの空容器、1ヵ所で沢山落ちていた羽を入れる為(他の羽と混ざらない為)。

③ 賞状を入れる円柱の容器(100円ショップ)。長い羽を入れるのに最適で折れ曲がる心配がありません。

この3点は忘れないように車にいれて置きます。

《こぼれ話》長瀬町内の林道を歩いていたとき、ツツドリの羽が数枚落ちていました。拾いながら辺りを探すと道端の側溝にも数枚ありました。手を伸ばそうとしたその時、マムシが首をあげていたのです。・・・今ではそうした場所では注意しながら拾っています。

● サンコウチョウの尾羽

2013年8月、山道で一枚の羽を拾いました。他に落ちていないか念入りに捜しましたが見つけることはできませんでした。見た瞬間サンコウチョウの尾羽と思いました。理由は長さ・幅・形・色などで間違いないと確信しました。帰宅すぐに羽図鑑、ネットなどで調べても載っていません。しかし自分ではサンコウチョウの尾羽だと信じています。次ページ上の写真は、上段はオナガの尾羽23cm、そし



てその時のサンコウチョウの尾羽 19 cmです。
 (編集部:『しらこぼと』1ページの短辺は18.3 cm)

● ヤマドリ¹の尾羽

数年前、秩父の山中でクマタカを見る事が出来、次の休みにまた出かけました。結果は空振り。林道を歩いていると思わぬ宝物が落ちていました、ヤマドリの羽です。それも体羽以外に多くの尾羽が……。疲れの吹き飛ばし林道歩きになりました。

下の写真は、ヤマドリ¹の尾羽 79 cm。比較の筈は約 90 cmです。

● エナガ²の古巣は魅力的

エナガの巣には沢山の羽が使用されています。皆さんもエナガが春先に口に羽をくわえている姿を見たことがあるかと思います。まさに巣作りの最中と考えられます。

そこでどのような鳥の羽を巣材として使っているか話したいと思います。エナガの巣は羽を探している時に落ちていることがあります。その巣の資料から記載します。

- ・2004, 04, 30 長瀨町不動山

トラツグミ、カケス、キジバト、ツグミ、ヒヨドリ、フクロウ、ニワトリ

- ・2006, 06, 01 秩父市三峰

ヤマドリ、アオバト、ツグミ、トラツグミ、カケス

- ・2008, 04, 12 日叢山 (皆野町)

トラツグミ、キジ、コゲラ、メジロ、キジバト、シジュウカラ、アトリ、エナガ

- ・2014, 05, 17 秩父市浦山

ヤマセミ、ヒヨドリ、エナガ、キジバト、メジロ、ツグミ、ホオジロ

・2014, 04, 24 長瀨町 (出牛林道)

キジバト、ドバト、ヒヨドリ、カケス、フクロウ、メジロ、ソウシチョウ

以上のように多くの鳥の羽が使われています。

浦山で拾った古巣は完全なものではなく壊れたものでした。持ち帰り調べてみたらなんとヤマセミの体羽だったのです。ヤマセミの羽は初めてで、その後現在まで拾っていません。いつの日かを夢見て、私にとってエナガの巣はまさにお宝となりました。

《こぼれ話》

数年前の事、皆野町の叢山に春先行った時の事です。2羽のエナガのうち1羽が羽を嘴にくわえていました。追跡すると桜の木に巣作りの最中で幹から枝分かれする部分に巧妙にカモフラージュした巣を制作中(職人技)。秋になりお宝をいただくとう叢山に向いましたが、巣のあった桜の木を探しても結局わからずじまいになりました。

● 最後に

コノハズクの姿を見たことのある人は少ないと思います。理由は日中の活動が少なくじっとしているからです。

しかし、以外に羽は拾う事があります。アオバトやヤマドリもなかなか見られない鳥なのですが、やはり山登りなどで拾う事があります。みなさんのマイフィールドにも羽は落ちていることでしょう。その羽の落とし主が分ってくればパートウォッチングの楽しみ方が2倍3倍と膨らむと思います。

私は今、探鳥会で羽も紹介していますが、羽を探す探鳥会も面白いのではないかと考えています。少しでも羽に興味を感じていただけたら幸いです。



2018 年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 調査部

日 時：2018年9月17日 9:35～11:35
場 所：さいたま市 大久保農耕地
天 候：晴

東日本は気圧の谷になっていたため、天気心配されましたが、調査中はよく晴れて、気温も30℃を越える真夏日となりました。また、連休の最終日にもかかわらず、13名もの協力が得られました。ありがとうございました。

稲刈りもほとんど終わり、2日前に降った雨のためか田は所々湿っている程度で、シギ・チドリ類の調査にはあまりよい環境とはいえませんでした。数日前はムナグロやアカエリヒレアシシギなどが観察されたそうですが、当日観察されたシギ・チドリ類は、タシギとタシギ属不明種だけでした。昨年と比較すると、個体数は2羽少なかったのですが、種数が2種減りました。これはB区でタシギ



属不明種が1羽観察された以外は、シギ・チドリ類がA区でしか観察されなかったことが原因です。

下の表は過去10年間の調査結果をまとめたものです。それ以前は「しらこぼと」2012年12月号(No.344)をご覧ください。

※表中の「タシギ属不明種」はタシギ以外のタシギ属のため、種数には入れませんでした。(石井 智)

秋のカウント結果 (大久保農耕地)

| 年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 調査日 | 9/21 | 9/20 | 9/19 | 9/17 | 9/23 | 9/15 | 9/23 | 9/19 | 9/18 | 9/17 |
| 天候 | 曇り | 曇り | 晴れ | 晴れ曇り | 曇り | 曇り | 晴れ | 雨 | 快晴 | 晴れ |
| 1 ムナグロ | 8 | | | | | 17 | 1 | 13 | 5 | |
| 2 オオジシギ | | | | | | | | | 2 | |
| 3 タシギ | 9 | 5 | 7 | | 21 | 23 | 1 | 44 | 15 | 20 |
| 4 オグロシギ | | | | | 1 | | | | | |
| タシギ属不明種 | | 1 | | | 7 | 4 | 6 | | 2 | 2 |
| 合計 | 17 | 6 | 7 | 0 | 29 | 44 | 8 | 57 | 24 | 22 |



野鳥情報

さいたま市岩槻区慈恩寺親水公園 ◇8月15日、ツツドリ、アオサギ、ダイサギ、カルガモ、キジバト、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラスなど（嶋田富夫）。

蓮田市関戸 N36. 0101 E139. 6305 ◇8月17日、タシギ5羽、コチドリ10羽土の中にタカブシギが1羽混じっていた（関口明宏）。

蓮田市関戸 N36. 0087 E139. 6285 ◇8月19日～31日、毎朝バンの親子を観察できるようになった。幼鳥（下写真）は全部で5羽いるが成長がまちまちです（関口明宏）。



さいたま市の鴨川 ◇8月19日、根切橋～藤橋でササゴイ成鳥1羽、ゴイサギ成鳥1羽、アオサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモなど。植田谷堰付近くでゴイサギ幼鳥5羽、浅瀬に散らばって立ち、獲物を狙う。1羽は足元近くをゆっくり泳いで行く大きな黒いコイを「あれは、何だろう？」とでも問いたげに頭を傾げて眺めていた。他にアオサギ、コサギ、カイツブリ、イソシギ、カワセミ、ハイタカ、ツバメなど（大塚純子）。

久喜市菖蒲町下栢間 ◇8月20日午前6時20分、ツバメ50羽、自宅近くの電線にとまる。そろそろ旅立ち？（小貫正徳）。

川越市通称南古谷地区(53396473) ◇8月21日、午前9時50分、一部に水が入った休耕田にコチドリ4羽。同10時30分、田んぼの中、綺麗に盛り土してある所にムナグロ130羽位。同じ方を向いて立ち並んでいた。現地でカメラマンから聞いて行ったので、いつ飛んで来たのか気がつかなかった。ムナグロの群れのそばにコチドリ6羽。8月23

日午前9時15分、田んぼの中、21日と同じ盛り土をした場所にムナグロ66羽とコチドリ2羽。乾いた土の塊がごろごろしている。ムナグロは休んでいるように見えた。10分位するとほとんどが立ち上がり、9時40分、半分ほどが南西へ飛んで行く。10時、水の入った休耕田にタカブシギ1羽、すぐに飛ぶ。10時30分、水が入った休耕田にコチドリ6羽、動き回る。近くにヒバリシギ1羽。コチドリがそばを通るとき大きさが確認できた。識別が不安なのでカメラマンを呼びに行く。戻ってから再び探すとヒバリシギの他にタカブシギが2羽入っていた。大きさが随分違っていた。8月30日午後5時30分～6時30分、水の入った休耕田3ヶ所が隣接した所でアカエリヒレアシシギ6羽。忙しく餌を探し回るもの、水浴びするもの、近くまで来るものもいて驚いた（今村富士子）。

（編集部注：現在「南古谷」という地名はありません。駅名等に残るだけです。従って、「通称南古谷地区」と記載しています。）

川越市久下戸(53396473) ◇8月27日、川越東高校周辺（通称：南古谷）でムナグロ160羽土、コチドリ30羽土、キアシシギ1羽（小林みどり）。

大宮第三公園の池(53396591) ◇8月27日午前8時30分頃、クサシギ1羽。マイフィールドにやっとシギが来てくれた。猛暑続きで干上がった池の干涸に、ふわっと降り立った。涼しげな姿に秋を感じた。この日の夕方、当地は雹も混じる雷雨となる。8月29日午前6時30分頃に行ってみると池全体が浅い水たまりになっていて、ひこばえの様に水草が伸び、その間を色々な鳥が動き回っていた。カルガモ2羽、キジバト、アオサギ2羽、クサシギ1羽、イソシギ1羽、ツバメ、ムクドリ、ハクセキレイ（浅見徹）。

蓮田市駒崎 N36. 0141 E139. 6282 ◇8月28日～31日、見沼代用水沿いの桜並木で10羽土のコムドリを観察できるようになった。桜並木と用水を挟んだ雑草地を行ったり来たりしていた（関口明宏）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇8月25日、ツバメ20羽～30羽の群れが青空を飛び交い、採餌する。その中にヒメアマツバメが2羽(藤原寛治)。

桶川市舎人新田調整池 ◇8月29日午前5時35分、ゴイサギ成鳥31羽、幼鳥103羽、アオサギ1羽、カルガモ5羽、ゴイサギ最多確認(小貫正徳・とみ子)。◇9月17日午前6時、アオサギ1羽、ダイサギ1羽、カルガモ6羽、ゴイサギ成鳥50羽土、ゴイサギ幼鳥113羽土。9月29日午前6時15分、コガモ20羽土、第一陣飛来(小貫正徳)。

川越市伊佐沼(53397411) ◇9月10日午前中、セイタカシギ11羽、コガモ5羽(嶋田富夫)。

川口市西川口4丁目(53395576) ◇9月13日午前10時30分頃、京浜東北線川口駅～西川口駅間の線路沿いを歩いていたらレールの上に青くて腹が赤い鳥! イソヒヨドリみでした。スマホカメラを構えると近くのマンションの最上階あたりまで飛んで行き、非常階段の手すりにとまった。こんな都市部で見られるとは感動でした(市原尚樹)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇9月16日午前10時頃、シジュウカラの群れを見ているとムシクイが1羽、頭中央線がはっきり確認できたので、センダイムシクイと判明(藤原寛治)。

鴻巣市大間一丁目 ◇9月22日午後2時15分頃、上空にハヤブサ1羽。何度か旋回したのち、西方へ飛び去る。当地に地付きのハヤブサはいないので、渡りの途中の個体ではないか(榎本秀和)。

さいたま市岩槻区慈恩寺親水公園(53397577)
◇9月22日、ヨシゴイ幼鳥2羽、親は見ることができなかった。他に、ムクドリ、シジュウカラ、カルガモ、キジバト、アオサギとハクセキレイが上空通過、モズ高鳴き、ハシボソガラス(森本國夫)。

表紙の写真

スズメ目ヒヨドリ科ヒヨドリ属ヒヨドリ

2017年11月、ヒヨドリがピラカンサの実を啜ってご満悦の様子でした。

小島 實(鳩山町)

奥日光夏景色

藤原寛治(さいたま市)

猛暑の続く8月初め、奥日光に行きました。

戦場ヶ原は、暑さの苦手なアキアカネ(赤トンボの一種)があちこちで見られます。木道上には、うっかりすると踏んでしまいそうなほどとまっています。

戦場ヶ原には、ノビタキの姿があり、幼鳥も複数見られます。緑の濃い林の中からは、ヒガラの囀り、コガラの地鳴きなどカラ類の音が聞こえますが、なかなか姿を見ることはできません。遠慮がちに囀るアオジの声を聞きながら、木道を歩いて行くと、湯川を泳ぐオシドリが目に入りました。背伸びをするように首を伸ばして、川岸に生えているやや背の高い草の葉を食べ、泳ぎながら、首を伸ばして葉を食べ、を繰り返しながら進んでいきます。

川の中ほどに倒木がありました。そこに近づいていくと、今度は、その木の幹に沿うようにずっと首を伸ばしました(下写真)。何と! このオシドリは、倒木にとまっていたアキアカネを捕食していたのでした。

川岸に生えている草の葉を食べているように見えたのも、実は、葉にとまっていたアキアカネを食べようとしていたのです。他のオシドリ(1羽)にも同様の行動が見られました。

泉門池に行くと、そこにいたマガモ2羽も泳ぎながら、川岸に近づくと、ずっと首を伸ばして、草の葉にとまっているアキアカネを食べようとしておりました。いっぱいいるアキアカネは、ここのカモたちにとって、この時期限定のごちそうなのでしょうかね。





行事案内



シメ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月3日(土・祝)

集合：午前7時40分、丸山公園南口入口付近。

交通：JR 高崎線 上尾駅西口③番バス乗り場から **尾32** 西上尾第二団地經由リハビリセンター行 7:22 発で「丸山公園入口」下車、徒歩約4分。

担当：近藤、秋葉、浅見(徹)、大坂、柴田、千葉、永野、吉原(早)

見どころ：早朝の静かな公園で、今季到着したばかりの冬鳥をさがします。去年はアリスイがホオジロと睨めっこする場面も。さて、今回はどんな出会いがあるでしょうか？
帰りのバス：下車したバス停から 12:43 発。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月4日(日)

集合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。

交通：東武春日部駅西口、朝日バス③番乗り場から春日部エミナース行き 8:41 発で、「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、佐藤、佐野、進士、橋口

見どころ：冬鳥の季節到来です。ツグミ、シロハラ、アカハラ、ジョウビタキ、タヒバリ、シメ、カシラダカらとの出会いを求めて雑木林、屋敷林、田んぼ、ハス池、草地を巡ります。(途中、トイレ休憩あり)

帰りのバス：朝、下車した所の反対車線のバ

ス停発 13:07、14:20 (9月現在の時刻表による)。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：11月7日(水) 平日

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バスの手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)を利用。東武伊勢崎線 羽生駅東口 8:04 発→南羽生駅 8:21 発→「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：遠くに望む日光連山をバックに飛ぶタカ類、ヨシ原でのオオジュリンや池のヨシガモを探す平日探鳥会です。

注意：帰りのバスは 14:50 発です。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：茂木、新井、鶴飼、大畑、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上

見どころ：どこからか聞こえるジョウビタキの声。渡来したばかりのツグミの群飛。いつもの林の小径はすっかり秋。木々の葉やカラスウリの実も色鮮やかに、皆さんのおいでをお待ちしています。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月17日(土)

集合：午前9時、見沼自然公園駐車場南側のベンチ付近。

交通：JR大宮駅東口のバス乗り場⑦番(高島屋デパートの道を挟んだ向かい側)から国際興業バス「大81」さいたま東営業所行 8:23 発に乗って 8:44 着「締切橋」で下車。締切橋バス停からリーダーがご案内します。

担当：浅見(徹)、石塚(敬)、市原、柏瀬、河邊、工藤、小林(み)、野口、廣田、山田

見どころ：公園とその周辺の田畑や林で、渡ってきたばかりの冬鳥を探します。見沼たんぼでタヒバリ、林でモズやジョウビタキ。公園の池ではカモ6種を間近に観察。カワセミもきっと待っています。

お知らせ：「親子探鳥会」を同時開催。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月17日(土) 午後3時～4時
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月18日(日)

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交通：JR北浦和駅東口、正面信号を左側から渡り、50m先左手バスターミナルから 8:23 発東武バス「さいたま市立病院行」で終点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見(徹)、青木、楠見、小菅、小林(み)、須崎、新部、畠山

見どころ：見沼たんぼでの探鳥会、今年第3弾です。11/3-4(P9右段)と11/17は、見沼代用水東縁(べり)、ここ三室は見沼代用水西縁(べり)です。全部参加すれば、あなたも立派な見沼の鳥見人。そんなあなたをオオタカが待っていてくれるでしょう。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月18日(日)

集合：午前8時35分、東武東上線 武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博

物館利用者専用です。駐車する場合は「蝶の里公園駐車場」にしてください。

交通：東武東上線 川越 7:58 発、または寄居 8:02 発に乗車。

担当：千島、新井、今村、鶴飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：雑木林でシメ、ツグミ、アオジ、カラ類。河原でイカルチドリ、セキレイ3種、ベニマシコ。猛禽も飛ぶでしょう。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日(金・祝)

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線 本庄駅北口から国際十王バス 9:06 発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島、千島

見どころ：近年カモ類の到着が遅れているのが気付きですが、猛禽類、冬の小鳥達、シギやチドリも見られていますよ。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きますので、足拵えはしっかりと。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月23日(金・祝)

集合：午前9時、東武東上線 柳瀬川駅西口、スーパーサミット前の円形広場。

担当：鈴木(秀)、神場、佐久間、志村、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、持丸、山口

見どころ：柳瀬川の土手を村山快哉堂まで歩きます。冬鳥のカモ類、サギ類やキセキレイ、中洲のイカルチドリやイソシギ、モズや猛禽などを探します。昼食せず散会です。

栃木県奥日光・千手ヶ浜探鳥会 (要予約)

期日：11月23日(金・祝)

詳細は10月号をご覧ください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月24日(土)

集合：午前9時、環境学習館前。

交通：JR宇都宮線 蓮田駅東口から朝日バス 8:50 発国立東埼玉病院行きで「新井団地」下車。バス停からご案内します。



行事報告

5月13日(日) 栃木県 奥日光

参加: 35名 天気: 雨

マガモ カルガモ キジバト カワウ カッコウ
オオジシギ コゲラ アカゲラ アオゲラ ハシ
ブトガラス コガラ ヒガラ シジュウカラ ヒ
バリ ウグイス センダイムシクイ ヒレンジャ
ク ゴジュウカラ アカハラ ノビタキ コサメ
ビタキ キビタキ ニュウナイスズメ ハクセキ
レイ ビンズイ ホオジロ ホオアカ アオジ
(28種) 小雨の中スタート。カラ類の轉りで始
まり、湯川沿いではキビタキ等のヒタキ類のオン
パレード。戦場ヶ原を見渡せるところでは、オオ
ジシギの声を聞く事ができた。途中で雨足が強くな
って赤沼に引き返した。参加者の中には、ヒレ
ンジャクを見られた運の良い人もいた。鳥が多か
ったので、雨だったのが残念。(入山 博)

5月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 68名 天気: 晴

キジ カルガモ カワウ バン コチドリ タシ
ギ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ
ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ
ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ オオヨシキ
リ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセ
キレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ (25種)
(番外: ドバト) 快晴の中、出発。最初に出迎
えてくれたのは、5月の主役であるホオジロとヒ
バリだった。キジの声があちらこちらから聞こえ、
水の入った田んぼにはコチドリとタヒバリ。芝川
沿いには数が少なくなったオオヨシキリをみんな
で観察。最後にカワセミが登場して探鳥会を締め
てくれた。(須崎 聡)

5月26日(土) 群馬県 渡良瀬遊水地 Young

参加: 35名 天気: 晴時々曇

キジ カルガモ キジバト カワウ サンカノ
ゴイ ササゴイ アオサギ ダイサギ チュウサギ
ホトトギス カッコウ コチドリ コアジサシ
トビ ハヤブサ モズ オナガ ハシボソガラス

ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ
ヒヨドリ ウグイス メジロ オオセッカ コヨ
シキリ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレ
イ カワラヒワ ホオジロ (33種) 野鳥の会東
京と共催、BIRDER誌の取材あり、Nikon双眼鏡の貸
出ありと盛りだくさんの渡良瀬ヤン探。東京を含
めた総勢約60名で賑やかにスタートした。谷中湖
ではコアジサシが近くを飛んでくれ、対岸にはサ
サゴイが。オオヨシキリやホオジロが轉るなか草
原へ向かうと、オオセッカとコヨシキリが賑やか
に轉っていた。(廣田純平)

5月26~27日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加: 20名 天気: 晴

オシドリ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、ア
オサギ、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ハチ
クマ、トビ、ノスリ、クマタカ、コゲラ、アカゲ
ラ、アオゲラ、サンショウクイ、モズ、カケス、
ハシブトガラス、キクイタダキ、コガラ、ヤマガ
ラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、
ウグイス、エナガ、ゴジュウカラ、キバシリ、ミ
ソサザイ、クロツグミ、アカハラ、コルリ、サメ
ビタキ、コサメビタキ、キビタキ、ニュウナイス
ズメ、スズメ、キセキレイ、カワラヒワ、イカル、
ホオジロ、ノジコ、アオジ、クロジ (46種) バ
スを降りるとキセキレイがお出迎え。みどり池
では去年につづいてオシドリがお出迎え、しかも
今年はカップルだ。鏡池までの途中は子育ての真
っ盛り。隋神門付近では一度にたくさんの小鳥た
ちに出迎えられて皆さん大興奮。最後にノジコを
近距離で。楽しかった1日が終わった。翌日の早
朝はお目当てのコルリ。声を頼りに探す、なか
なか見つからない。思ったよりも高いところで轉
っていた。隋神門付近で、もう一つのお目当ての
クロジ。遠かったけれど皆で観察できた。例年よ
りも種類は少ないが充実していた。(菱沼一充)

5月27日(日) 狭山市 入間川

参加: 49名 天気: 晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ
ササゴイ イカルチドリ コチドリ イソシギ
トビ オオタカ コゲラ オナガ ハシボソガ
ラ ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒ
ヨドリ エナガ メジロ ムクドリ キビタキ
スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラ

ヒワ ホオジロ (27種) (番外：ドバト) 通常のコースにササゴイが少ない。少し離れた対岸にいる姿を草の間からやっと見る程度。個体数はそこそこあるのだから、もう少しこちらに来てほしいところ。コチドリの子は、今年は確認できなかった。どこかで繁殖しただろうか。(長谷部謙二)

6月3日(日) 北本市 石戸宿

参加：53名 天気：晴

コジュケイ キジ カルガモ カイツブリ キジバト アオサギ バン ホトトギス カワセミ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ オオヨシキリ セッカ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (25種) (番外：ガビチョウ) 河川敷に出たら桑の実を食べに来た沢山のハシブトガラスに遭遇。高尾の池では9羽のヒナを連れたカルガモのお母さん。お母さんが先に行き、距離が離れたら、次々にダッシュして直ぐに追いついたのには感動。バンの親子やカイツブリのヒナも見られた。ホトトギスやコジュケイの声も聞いた。暑かったけれど充分楽しめた。(吉原俊雄)

6月3日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：41名 天気：晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ バン オオバン コアジサシ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ エナガ オオヨシキリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (28種) (番外：ドバト) この時季に見られる鳥は当地で繁殖を行う鳥たち。出発して早々、チョウゲンボウ登場。数は少ないが、オオヨシキリの声も聞こえる。調節池上ではコアジサシ1羽がひらひら舞い、アオサギの子育ても観察できた。(須崎 聡)

6月8日(金) 羽生市 羽生水郷公園

参加：34名 天気：晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ カッコウ コチドリ トビ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ メジロ

オオヨシキリ ムクドリ スズメ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (24種) (番外：ドバト) 開始早々モズ若鳥が現れる。水辺の巣の傍にはアオサギ幼鳥が9羽。巣立ったばかりのツバメの幼鳥達も木陰で羽を休める。池では右足を痛めたカルガモが泳ぎ、警戒音で辺りを探すとカイツブリの巣を蛇が襲っていた。親鳥の鳴声が衰れで、自然の摂理を考えさせられた。(相原修一)

6月10日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。(千島康幸)

6月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：10名

相原修一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司、三ツ矢正安、吉原早苗、吉原俊雄

6月17日(日) さいたま市 三室地区

参加：48名 天気：曇

キジ キジバト カワウ コチドリ ハイタカ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (18種) (番外：ドバト) 三室地区は俗に珍鳥と呼ばれる鳥はあまり出現しない。しかし、初心者向けの鳥達はぱっちり見られる。今回は種類は少ないが基本の鳥はしっかり見ることが出来、猛禽のハイタカも上空を舞い、この時季では満足のいく探鳥会であった。(青木正俊)

7月1日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

参加：48名 天気：晴

キジ カルガモ キジバト カワウ ヨシゴイ ホトトギス カッコウ コアジサシ トビ コゲラ チョウゲンボウ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ウグイス オオセッカ オオヨシキリ コヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (26種) (番外：ドバト) この日は猛暑。最短コースで第一調節池を目指した。オオヨシキリ声を聞きながら、カッコウ、ホトトギスのポイントまで進み、そこより先は希望者のみとした。先へ進んだ方は、暑いながらもコヨシキリやオオセッカを確認できた。(佐野和宏)



●茨城県知事に陳情書提出

9月8日(土)-9日(日)日本野鳥の会群馬主催、高崎市内で開催された関東ブロック協議会で、日本野鳥の会茨城県から提案された茨城県知事あての陳情書の件につき、9月11日付けで同趣旨の郵便が日本野鳥の会茨城県から当会に届きました。

「8月27日、茨城県小美玉市内において、ハス田に張られた防鳥網にコウノトリが掛かり、一時保護されたものの死亡した。このような痛ましい事故が再発しないよう、防鳥網の適切な管理運用が図られるよう陳情する」という趣旨の陳情書を、関東ブロック協議会の構成団体からもそれぞれ提出してほしいとのこと。

9月16日の当会役員会で協議した結果その要請に応えることにして、当会としての同趣旨の陳情書を同日日本野鳥の会茨城県に郵送して茨城県知事への提出を委託、10月11日一括提出されました。

●会員の活動

9月15日(土) 越谷市民会館で開催された「越谷市いきもの調査2017-2020説明会」において、野鳥の指標生物について、山部直喜副代表が解説を行いました。

9月29日(土) 松伏町まつぶし緑の丘公園管理センターで開催された「ファイブワン自然塾『身近な生きもの物を探そう』一斉調査」において、山部直喜副代表が指標生物(野鳥)の見つけ方・見分け方の説明をし、その後は実際にフィールドに出て説

明をしながら観察を行いました。

●会員数は

10月1日現在1,607人です。

活動と予定

●9月の活動

9月8日(土)10月号校正作業(海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之。9月7日(金)に海老原教子も)。

9月8日(土)-9日(日)日本野鳥の会群馬主催、高崎市内で開催された関東ブロック協議会に出席(浅見徹、石塚敬二郎、小林みどり、山部直喜)。

9月16日(日)役員会(司会:山部直喜、各部の報告・茨城県知事への陳情書の件など)。

9月18日(火)『野鳥』誌と同封発送しない会員向け、『しらこぼと』10月号を郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。

●11月の予定

11月3日(土)普及部会。編集部会。

11月10日(土)12月号校正(午後4時から)。

11月17日(土)袋づめの会(午後3時から)。

11月18日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

埼玉県では、秋に各市町で科学教育振興展覧会が開かれている。今年は、中学生と小学生の作品作成に少々協力する機会を得た。2点とも身近な野鳥の観察記録をまとめたもので、実にオリジナルな作品であった。案の定、2人からは上位受賞の連絡が届いた。熱いものがジワリと胸にしみこんできた。(山部)

しらこぼと 2018年11月号(第416号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 URL http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社